



大田区 × 株式会社
リコー × リコー
株式会社

RICOH
imagine. change.

SDGsの推進に関する連携協定を締結

大田区、株式会社リコー（本社：東京都大田区、代表取締役 社長執行役員：大山 晃 以下、リコー）及びリコージャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：木村 和広 以下、リコージャパン）は、2023年7月4日（火）、「SDGsの推進に関する連携協定（以下、本協定）」を締結いたしました。



山下会長（左）と鈴木大田区長（中央）と木村社長（右）
協定書の用紙にはバナナペーパー※1を使用しています。



署名の様子

本協定締結に至った経緯

大田区は、2022年3月に大田区におけるSDGs推進のための基本方針を策定、同年4月には大田区SDGs推進会議を設置し、SDGs達成に向けた取組を着実に推進してきました。

リコーグループは、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という創業の精神（三愛精神）に基づき、“はたらく”に寄り添い変革を起こしつつけることで、人ならではの創造力の発揮を支え、持続可能な未来の社会をつくることを使命と目指す姿にしています。「事業を通じた社会課題解決」「経営基盤の強化」「社会貢献」の3つの活動を通じ、SDGsの達成に向けて取り組んでいます。

大田区は、令和5年2月に、リコー、リコージャパンと連携した取組を盛り込んだ形で、内閣府の「SDGs未来都市」に提案を行いました。その結果、令和5年5月に、SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する都市である「SDGs未来都市」に選定されるとともに、その中でも特に優れた先導的な取組を行う「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。

これまで、大田区、リコー、リコージャパンは、区職員向けSDGsセミナー等で連携した取組を行ってきましたが、SDGs未来都市の選定を契機に、更に強力にSDGsを推進していくため、本協定を締結することといたしました。

今後は本協定に基づき、多様な分野において、お互いの資源やノウハウなどを連携させた取組を加速させ、大田区の持続可能な社会の実現を強力に推進していきます。

2023年度SDGs未来都市

SDGs未来都市 【28都市】	モデル事業 【10都市】
大田区 選定	大田区 選定

2018年度から2023年度までの選定都市数

選定都市数 / 全国自治体数

182 / 1788

うちダブル選定都市

60 / 1788

協定の目的

大田区、リコー及びリコー・ジャパンが、それぞれの持つ資源を活用して連携及び協力し、SDGsの普及啓発及び達成に向けた取組を推進することで、持続可能なまちを実現することを目的とします。

連携予定事項

目的の達成に向けて、以下の1～6に掲げる事項について連携し、協力して取り組みます。

1 未来を担う子どもたちのSDGs学習に関すること

- 連携案) ○ 区立学校へのSDGs出前授業
○ カードゲーム等を通じてSDGsを学ぶ子ども向けワークショップ など

2 区民、区内企業へのSDGsの普及啓発に関すること

- 連携案) ○ 公共施設へのSDGsステッカーの掲示
○ 区内中小企業向けSDGsセミナー など

3 ゼロカーボンシティの実現に向けた取組に関すること

- 連携案) ○ 公共施設、区内企業事業所のZEB化に向けたセミナー
○ 区立小学校等におけるペロブスカイト太陽電池などの最先端環境技術の実証 など

4 大田区及び区内企業の持続可能な経営の実現に関すること

- 連携案) ○ シニア・現役社員等の人財活用による大田区及び区内企業等の支援を通じたSDGs・ESG経営の推進 など

5 区職員のSDGsの理解促進及び政策立案の支援に関すること

- 連携案) ○ 区職員向けSDGs研修会 など

6 その他3者の連携による取組が必要と認められること

階段ステッカーについて

協定締結を記念して、リコーの技術を活用した環境にやさしい素材を用いたステッカーを作成し、大田区本庁舎の階段（北側階段・南側階段の2か所）に掲示しました。

多くの人の目に止まる本庁舎の階段に掲示することで、来庁者にSDGsの17ゴールの内容等をお伝えするとともに、身近な取組の実践を促していきます。



ステッカー掲示の様子
大田区本庁舎1階 北側階段



ステッカー掲示の様子
大田区本庁舎1階 南側階段

※1 バナナペーパーは今までは廃棄されていたオーガニックバナナの茎の繊維に、古紙または森林認証パルプを加えて、日本の和紙の技術を用いて作られた用紙です。

バナナ繊維配合率20%以上のバナナペーパーは、日本初のフェアトレード認証紙であり、クライメートポジティブ※2な紙です。

※2 クライメートポジティブとは、温室効果ガスの排出量より、削減量を多くすることです。

二酸化炭素の排出量と吸収量をプラスマイナスゼロにする取組をカーボンニュートラルと言いますが、クライメートポジティブはメタンやフロンなども含む温室効果ガスを、拮抗にとどまらず「排出<吸収」となる状態を目指す概念です。